

アナログオーディオ&ゆとりライフマガジン

平成 31 年 1 月 19 日発行 (年 4 回刊) 第 15 巻第 2 号通巻 62 号 ISSN1349-585X

季刊・アナログ

# analog

2018  
WINTER  
vol. 62

Phile  
magazine

終わりになき「こだわり」を追求

年末年始・特別企画

「お手入れ」の贅沢  
最新クリーニングマシンを知る

ビットインインタビュー

ケイコ・リーさん  
(後編)

特集

いま、その進化がすごい!

「フォノイコライザー」の  
たしなみ

「先端」を極めた「伝統」  
~SPUのいま~

holbo / スロヴェニア発のターンテーブルが日本初上陸

# エアフローティングの最先端

その魅力をアナログの“マエストロ”が語る

スロヴェニア発の新たなターンテーブルブランドが日本に初上陸を果たした。その名はholbo(ホルボ)。創設者であるボスジャン・ホルク氏は現在47歳。最初のプレーヤーを作ったのは30年前の17歳のこと。そして約20年前にはリニアトラッキングのアームを製作していたという偉才である。そんな同氏が出がけたアナログプレーヤーがここに紹介する「Airbearing turntable system」。最大の特徴はプラッターとリニアトラッキングのアームをエアで浮かせている点。

デビュー作にして高い完成度と評価の高い同プレーヤーとして、その実力の高さにいち早く目を向けたのが、東京杉並区に店舗を構えるアナログ専門店「マエストロ・ガレージ」の店主、谷口 誠さんである。そこで本項では同店を訪ね、谷口さんにholboのプレーヤーの魅力語っていただいた。

●インタビュー:編集部



holbo

## Airbearing turntable system

アナログプレーヤー  
¥1,000,000(税別)

### Specifications

[ターンテーブル] ●ベアリングエアベアリング設計 ●モーター:DCモーター ●駆動方式:ベルトドライブ ●アルミプラッター:5kg ●サイズ:430W×150H×400Dmm ●総質量:12 kg [トーンアーム] ●機構:リニアトラッキング・エアベアリング・トーンアーム ●材質:アルミニウム合金/カーボン ●有効長さ:163mm ●有効質量:7.5g ●トーンアーム質量:31.6g [エアポンプ] ●消費電力:10W ●サイズ:220V×120H×147Lmm ●質量:1.0kg ●出力:約1.1L/min (稼働時)

個人的にメカニク的なプレーヤーが好きなので、店にはクリアオーディオのリニアトラッキングアームを搭載したプレーヤーも常駐しています。holboのプレーヤーに関しても、取り扱いの話が舞い込んできて、holboのプレーヤー自体にも大変興味を持ち「貸してほしい」とお願いしました。アナログプレーヤーは自分でいじってみないとわからない部分がありますからね。まずは実際に自分でセットしてみて、お客様にどのくらいお薦めできるかを見極める。これこそが販売店が重要

お客様に薦める前には自分でいじって見極める  
holboのプレーヤーに注目したきっかけは何でしたか？



holboのプレーヤーの魅力語ってくれたマエストロガレージの谷口 誠さん。JR最寄り駅から徒歩1分と地元の立地にある開店。アナログオーディオファンならぜひとも一度訪ねてほしい





本機のリア部。出力はRCAが1系統でエアポンプとの接続端子も装備。動作はアダプターによるDC駆動で、33回転と45回転の切り替えスイッチも装備



holboのプレーヤーにはサウンド・スミスのFixed Coil製カートリッジを搭載。その他にStillpointsのアナログスタビライザー「LPI」(¥100,000)も搭載

な後目だと思っっています。  
レコードの方にお薦めしていきたいプレーヤーですか？

日本のオーディオオマニアの方には特にアナログプレーヤーに関しては、holboのような新しいタイプ、ブランドには抵抗感がある方が多いですね。確かにガラード等も本当に素晴らしいプレーヤーですが、いまの最先端のアナログの音も知ってほしいというのが私の願いです。

### 弱音部でも際立つDレンジ 引き締まった低域も魅力

holboのプレーヤーの音質的な魅力はそこにあると思いますか？

holboのプレーヤーは本

当に音がいいです。それを何とか言葉にできないかなと思っただけからいって、とにかく聴いているのですが、とにかく静かなプレーヤーですね。それからフローティング式のプレーヤー自体は何度も体験していますが、空気を使得って浮上させているからでしょうか、動作が非常にスムーズな点は他のフローティング・プレーヤーを凌駕していると思います。

特に最新プレスレコードをかけると、本当に無音から始まるし、レコードではないような感覚になりますね。ノイズフロアが低いので、ダイナミックレンジが非常に大きく感じます。特に繊細な音が入っているピアノとかヴァイオリンを聴くと、透明感がものすごくあって、まったく揺るがない安定感があります。グルールのバッツハの平均律のデジタル録音のいちばん最近の再プレス盤を聴くと、非常に細かいニュアンスが出て、グルードが演奏中に聴るところ、その声が生々しい。そういう意味でも弱音部のダイナミックレンジが際立って聴こえて埋もれない。たぶん他のプレーヤーと

比べて、この部分で圧倒的な差が出るのではないかと思います。低域もドシンと出て、引き締まっていますね。ただ今回私も初めて聴くのですが、サウンド・スミスのカートリッジを付けているので、3割くらいはそのカートリッジの評価かもしれないですね。ですからサウンド・スミスも素晴らしいカートリッジだということですね。

サウンド・スミスのカートリッジは現代のハイエンドのMCカートリッジとはいえない意味で、いぶ違った感じですね。非常に力加み過ぎて、決して細くはなくて厚みが十分ある。MCは神経質で細く、高域がうるさいと嫌っている方にはすごくいいかもしれません。フォノイコライザーとのインピーダンスマッチングを注意すれば素晴らしいサウンドが体験できると思います。

### 正確に調整すればするほど 新たな世界が開けるプレーヤー

holboの使用感に関してはいかがでしょうか？

感心したのが、フラッターとアームを浮上させる外付けのエアポンプ部です。これはものす

ごく静かですね。至近距離に置いてもほとんど音が聴こえないし、スイッチを切るのを忘れてしまいうらいです。こんな小さな箱でチューブ1本だけで5kgのアルミ製のフラッターを持ち上げるので、最初は大丈夫かな？と思いましたが、ステイロポイントのスタビライザー(700g)も載せているくらいですから、全然大丈夫ですね。

それから、このアームはアジマス調整がものすごく簡単。軸が180度クルクル回るので無段階調整できるのです。最初は目測で聴いていたのですが、アジマスメーカーというのがあって、これで正確に調整したら完璧になりました。これだけ厳密にアジマス調整ができるプレーヤーというのにもそうはないと思います。高さ調整も含めて、きちんとセットすればするほど音が良くなる点も魅力です。

使いこなしのうえでのアドバイス等はありませんか？

ブライトーンさんが取り扱っているステイロポイント社のスタビライザーも載せているのですが、重量とボールを使った特

### ●谷口さんがお薦めするholbo試聴時のレコード

- ①「ヴァルディ」/四季 から「秋」イムジタ音楽団、F.アーロ(ヴァイオリン独奏) 録PHILIPS盤
  - ②「ファリャ」/「三角帽子」から管弦 リュウ・ベック・デュブルゴス指揮、フィルハーモニア管弦楽団 GEM盤
  - ③「L.S.バッツハ」管弦楽ヴァイオリン・ソナタ第2巻「イザベル・ファウスト」(ヴァイオリン独奏) 日Harmonia Mundi盤
  - ④「SLEEP AWHILE」ベネディクトゥル・グット(ヴォーカル) 録Acoustic Arts盤
- ※①と②は'60~'70年代、③と④は現代のプレス



マエストロ・ガレージ  
〒167-0051 東京都新宿区西早稲田5-16-14  
TEL:03-6383-5786  
●営業時間:13:00~19:00  
●定休日:毎週水曜日  
ホームページ:http://www.maestrogarage.com/

殊な制振効果でholbo+サウンド・スミスの良さが2+3割増す感じですね。さらに静かになるし、ゆるぎのない安心感がさらに出てきます。それから脚部はスバイク構造になっているので、スバイク受けは必須。しっかりしたものを選びたいですね。  
holboはシンプルな仕組みながら、フラッターもアームも浮かせてしまうのは本当に画期的だと思います。価格的にもアームまですべてセットで100万円(税別)というのも非常に親切な価格だと思えます。